

審査の結果の要旨

氏名 シャビ マリアム

論文題目 A study on urban street morphology from the traditional layout to the colonial and post-colonial developments of the city of Fez –Toward suitable street improvement in a specific Arabic context –

(フェズ街の都市街路形態の発展に関する研究 –アラビア文脈におけるストリートの適切な改善に向けて–)

本論文は、世界中で急速に広がる都市化に伴い増加する街路空間の問題に対して、伝統的なアラブ旧市街地とフランス保護領下で導入された西洋的新市街地、そして独立後の都市の拡大という複雑な都市構造を持つモロッコの都市フェズを対象とし、市内の 3 つの異なる地区を選定したうえで、近代以降、特に植民地時代とそれ以降の街路空間の変容について比較分析を行い、植民地主義が現代の都市空間と計画に与えた影響を明らかにするとともに、地域性と社会経済的現実性を両立する街路の開発について提示することを目的としている。

本論文は、6つの章から構成される。

第1章では、西欧とイスラム圏両方の研究者による都市計画についての既往文献を元に、多様な視点での都市分析、特に街路の形成過程から、伝統的なイスラム都市構造に対する宗教と社会文化的な影響を明らかにしている。また、フェズの旧市街メディナを分析し、伝統的なイスラム都市の特徴である街路のヒエラルキーと私的・公的領域の明確な分割について考察し、本論文の理論的な枠組みを設定している。

第2章では、フェズにおける植民地時代のフランス式の都市計画手法について、1906年から1956年の独立までを3つの時期に分け、植民地時代の都市形成過程と計画手法の発展について分析することで、現代のフェズにおける都市計画に対して植民地政策の与えた影響を明らかにすると同時に、将来の発展可能性について考察している。

第3章では、スプロールや急激な人口増加といった独立後の急速な都市発展について、社会的・物理的統計データを用いてマクロな視点からフェズの現状を分析している。ライフスタイルと交通手段の変化によって、街路は歩行者や自転車ではなく自動車優先で計画

され、また開放性の高い西欧的な住宅が街路に面して建てられることで、コミュニティが街路に対して求めるプライバシーや安全性の不足から公共空間の質が低下していることや、住宅の不均衡な供給と社会空間的な不平等、全体的な施策の不足によって上流階級の市民に利益が偏っていることを指摘している。一方、自然発生的で非公式な都市の拡張による街路構造と旧市街メディナの街路構造の類似点にも着目している。これらの分析から街路を歩行者のための空間へと転換する為に、都市計画に抜本的な改革が必要であると主張している。

第4章では、旧植民地の中心である「Agdal」、地方からの移住により急速に発達し労働者が多く住む「Bensouda」、独立後に拡張した都市である「Narjis」というフェズ市内の3つの地区を選定し、space syntax理論を用いて定量分析を行っている。この分析から、郊外の街路は形態上は植民地時代の様式や規制に従っているものの、定性的には中央集権によって都市環境の変化に柔軟に対応できず、階級と都市構造が固定化しその格差が増大していること指摘しており、それに対して各地区の権利者が参加型で不均衡を是正していく対応方法を主張している。また、道路のネットワークについては、観光地へのアクセスは良いものの、その他の地域が抱える都市構造の問題を指摘し、緊密に統合された街路のネットワークの必要性を述べている。さらに旧植民地の地域について、伝統的な都市構造からの変化を踏まえ、小売店を操作することで土地利用と周辺環境を変化させることを提示している。これらの分析から、伝統的都市構造と近代的な技術が調和するには、建築と街路パターン両方の新たな開発が必要であると結論づけている。

第5章では、街路空間について同様の都市的課題を抱える西欧の事例から、主に交通抑制によって街路の質を改善し居住性を高める先進的な概念と解決策を抽出している。

第6章では、これまでの理論的分析と実証的分析からの所見をまとめ、今日的要求と将来の展望を併せ持つ概念モデルを提案している。この概念モデルでは用途が混合した住居地域内の中心部において自動車交通を抑制し人々の交流を促すために、街路のヒエラルキーやヒューマンスケールを重視した伝統的街路パターンと、都市空間を活性化する接続性近接性を持つグリッドパターンを融合したハイブリッドな街路パターンを提案している。

以上のように本論文は、モロッコの都市フェズにおける都市構造と街路空間の変容に対する緻密な分析から、街路の革新的な改善方法を提案しており、特に独立後の急速な都市発展と都市構造の関係を示す実証的な研究は貴重である。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。